

## 中期的目標と進捗状況

### コーポレートガバナンス

評価基準 ○:計画通り実施 △:計画の一部を実施 ×:未達

中期的目標	2015年度 活動計画	2015年度 活動結果	評価	2016年度 活動計画
コーポレート・ガバナンスの強化	2015年に施行された改正会社法および、コーポレートガバナンス・コードに対応する。	改正会社法への対応および、コーポレートガバナンス・コードへの対応について適切に対応した。	○	コーポレートガバナンス・コードに係る新たな取り組みを実践するとともに、引き続きコーポレートガバナンスの充実を図る。

### 革新的な医薬品

評価基準 ○:計画通り実施 △:計画の一部を実施 ×:未達

中期的目標	2015年度 活動計画	2015年度 活動結果	評価	2016年度 活動計画
革新的な医薬品の研究・開発	独自の手法による創薬活動、スピーディーな臨床開発、積極的なライセンス活動を推進する	産学連携研究ネットワークの構築、新製品1品目の発売、2品目の適応追加の承認を取得、1化合物の導出を行った。	○	引き続き独自の手法による創薬活動、スピーディーな臨床開発、積極的なライセンス活動を推進する
適正なマーケティング活動の推進	最新のデータに基づき、適正な方法による情報提供活動を推進する。	安全性適正使用情報の収集・伝達活動の迅速化、WEB活用による医療・医薬品情報の提供を適切に行った。	○	引き続き、最新のデータに基づき、適正な方法による情報提供活動を推進する。
製品のグローバル市場への供給	引き続きアジアへの自社ブランド製品の供給を行う。	アジア向け自社ブランド製品の初動供給対応を行った。	○	アジア向け自社ブランド製品の継続的な供給体制を確立する。
抗体製品の安定供給	自社製造の抗体製品を海外に安定的に供給する。	自社製造の抗体製品供給をアジア(韓国、台湾)へ供給した。	○	抗体製品の原薬製造所追加の一変申請を行い、安定供給体制の強化を図る。

### 人財・人権

評価基準 ○:計画通り実施 △:計画の一部を実施 ×:未達

中期的目標	2015年度 活動計画	2015年度 活動結果	評価	2016年度 活動計画
人財育成の体制強化	【採用関連】 環境変化に対応した人財採用フローを策定し、実践する。	人財採用フローの見直し、効率的な新卒・キャリア採用を行った。	○	引き続き、環境変化に対応した人財採用フローを継続的に見直し、実践する。
	【教育研修関連】 各種研修のさらなる見直しとニーズに合致した効果的な研修を企画し、実践する。	人財育成につながる有用な研修を実施することができた。	○	各種研修の成果を検証し、より効果的な教育・研修を通じて人財の育成を図る。
	【自己啓発学習】 通信教育の啓蒙活動およびプログラムの充実、案内および申込みのWEB化を推進する。	通信教育講座のプログラムを充実させ、手続きのWEB化による受講促進を行った。	○	各講座の受講状況を分析し、通信教育講座の充実および自己啓発学習を促進する。
人権の尊重	事業活動のあらゆる側面において、人権を尊重し、行動する。これまでの人事ポリシーにもとづいて、人事制度の構築と運営を進めていく。	人事ポリシーにもとづき、制度の構築や運営を行った。	○	引き続き、これまでの人事ポリシーにもとづいて、人事制度の運営と検証を進めていく。
	コンプライアンス研修を実施し、ハラスメントの防止につなげる。	ハラスメントについても防止を目的とし、ライン長に対するコンプライアンス研修を実施した。	○	コンプライアンス研修を実施し、ハラスメントの防止につなげる。

環境

評価基準 ○:計画通り実施 △:計画の一部を実施 ×:未達

中期的目標	2015年度 活動計画	2015年度 活動結果	評価	2016年度 活動計画
2020年度のCO <sub>2</sub> 排出量を2005年度比で23%削減 ※対象範囲:生産事業所および研究所	2020年度のCO <sub>2</sub> 排出量を2005年度比で23%削減達成する為に、事業所ごとの活動を推進する。	老朽化した設備の更新やコージェネレーションシステムからの排熱利用範囲拡大、空調運転管理の徹底等を実施した結果、CO <sub>2</sub> 排出量は2005年度比で17.2%削減した。	○	設備更新時には省エネ性能に優れた設備を導入する他、管理の徹底を継続し、省エネやCO <sub>2</sub> 排出抑制に取り組む。
PRTR法第1種指定化学物質の環境への排出量抑制に取り組む。	化学物質の適正管理を維持・継続する。	排気フィルターの定期交換を実施し大気への排出抑制を実施した。また、取扱量を2.3%削減した。	○	化学物質の取扱量を現在の水準に維持するとともに大気への排出抑制活動を継続する。
廃棄物最終処分量を2015年度までに、2010年度の40%まで削減 ※対象:生産事業所および研究所	廃棄物の適正管理を維持・継続する。	廃棄物の排出量抑制に取り組むとともに、中間処理後の残渣をリサイクルすることにより最終処分量を12.49tまで削減したが、削減率は30.6%と目標値の40%を達成できなかった。	△	新たな目標を「2020年度における廃棄物最終処分量を2015年度の水準に維持する」と設定し、廃棄物の適正管理を維持・継続する。
環境事故や地域社会からの苦情がないように取り組みを継続	汚染物質の適正管理を維持・継続する。	大気汚染防止としてボイラーおよびCGSの煤煙濃度測定を実施した。また、水質汚濁防止として最終排水の水質測定を実施した。いずれの値も排出基準を遵守、排出基準の逸脱や地域社会からの苦情はなかった。	○	環境事故や地域社会からの苦情ゼロを継続できるよう、引き続き適正管理に努める。
環境省ガイドライン遵守	2014年度に引き続き環境効率性の評価を継続する。	廃棄物最終埋め立て量の削減とBOD負荷量の減少により、2005年度と比較して5.1ポイント改善した。	○	環境負荷軽減活動を推進し、環境効率性の改善を図る。
地域社会の美化活動、従業員の労災事故防止活動	生産事業所、研究所などの主要な事業所において周辺の美化活動を継続する。労災事故防止活動として、市の事業計画への参加、従業員への啓もう活動や教育を継続する。	生産事業所や研究所などの主要な事業所において、地域社会の清掃キャンペーンや消防活動に参加した。また、労災事故防止活動として市の事業計画に参加した他、安全衛生に関する啓もう活動や教育を実施した。	○	環境保護活動や地域社会活動に参加する。また、従業員への啓蒙活動や教育を継続する。

公正な事業慣行

評価基準 ○:計画通り実施 △:計画の一部を実施 ×:未達

中期的目標	2015年度 活動計画	2015年度 活動結果	評価	2016年度 活動計画
CSR調達推進	当社CSR調達の考え方をお取引先へ浸透させる。	ホームページにて当社のCSR調達方針を公表した。	△	当社CSR調達考え方をお取引先へ浸透させる。
コンプライアンス違反ゼロ活動	コンプライアンス違反をゼロにする。	潜在事例の掘り起し等を強化したが、減少には至らなかった。	△	研修活動等で、個人の抑止意識、組織の相互監視を通じた、未然・再発防止を目的とした推進活動を行う。

社会

評価基準 ○:計画通り実施 △:計画の一部を実施 ×:未達

中期的目標	2015年度 活動計画	2015年度 活動結果	評価	2016年度 活動計画
企業市民として積極的な コミュニティへの参画	地域貢献活動の充実を図る。	地域への貢献事業とともに、「医療と健康」をテーマとした取り組みを開始した。	○	地域への貢献事業とともに、「医療と健康」をテーマとした取り組みを強化する。
	寄附講座による学術支援活動を継続する。	大学への寄附口座開設で学術支援活動を継続して行った。	○	引き続き寄附講座による学術支援活動を継続する。
患者さんご家族の支援	患者団体主催の講演会などを支援する。	糖尿病、認知症、がん領域を中心に講演会等のイベントの支援を行った。	○	引き続き患者団体主催の講演会などのイベントの支援を行う。
	WEBによる医療情報の提供の充実を図る。	ONOメディカルナビや「笑顔とこころでつながる認知症医療」「ONCOLOGY.jp」などのWEB医療情報を充実させた。	○	引き続きWEBによる医療情報の提供を推進する。
	WEBによる患者疾患啓蒙活動の充実を図る。	認知症、リウマチ、糖尿病、がん領域のWEBによる疾患啓蒙活動を行った。	○	引き続きがん領域を中心に疾患啓蒙コンテンツの充実を図る。